



本校の歴史その5:「大阪府との関係」

No.14 木村理事長・学院長 平成23年度公式メッセージ
(平成23年5月16日アップ)

本校の歴史その5
「大阪府との関係」



- ・ ブログ本校の歴史その1:「創立記念日」、その2:「3人の恩人」、その3:「創立時の教職員と第一期生」、その4:「何故住吉の地に・・・」と創立前後の本校の歴史を振り返ってきた。
- ・ 学校が平穩無事であるから私の心も穏やかで天が授けてくれた丁度良い機会であると思うことにした。この際「本校の原点」を振り返ってみたい。しかし面白い。「どうにも止まらない」感じである。今日は本校と大阪府との関係について整理考察してみたいと思う。
- ・ 今までのブログにおいて何回と無く触れたように「大阪府の指導支援を得ながら本校は開設された」ことは明白である。しかしこの事は本校側からの言い分であり、「大阪府が本校をどのように見ていたか」の資料が「パチッ」とあればそれで十分である。
- ・ ところが「これ以上最適な資料がないくらい」のものがあつた。それは60周年史の巻頭にある当時の大阪府知事岸昌氏の祝辞である。ところでこの60年史は「中々の出来」であり、他所にお見せしても恥ずかしくはない。それくらい内容が充実している。
- ・ さて前述の元大阪府知事岸氏の挨拶文は冒頭以下のような文章である。“（前略）貴校は大正12年大阪府下の神職団体である財団法人大阪国学院が浪速中学校を創設したのが始まりであります。今では余り知られていませんが戦前は浪速中学校と大阪府とは密接な関係にありました。当時大阪国学院の総裁には大阪府知事がまた院長には大阪府内務部長が就任するなど「準公立的な一面」を持っておりまして他の私学とは趣を異にする独特の学校であると言えましょう。・・・（後略）”
- ・ 前述の準公立的一面と言う言葉で全てが分かる。この事は50年史において創立時に浪速中学校の教員になりその後第七代目の校長に就任した平岩芳太郎先生の回顧録に「当時一人の生徒から何時になったら府立に昇格するのですか」と聞かれて困つたと書いておられることから伺い知れる。
- ・ 当時は前にも書いたように校地の選定から生徒募集まで府の支援を受けていた。初代の校長事務取扱の任にあつた大島鎮治先生も大阪府から派遣された教育行政官で、本校はまさしく「おんぶに抱っこ」の状態であつたと言える。
- ・ だから前述したように「準公立学校」としてのイメージは広く大阪府内にはあつたと考えることは自然である。しかしこの事は特に生徒には余り良い感情ではなかつたと先の平岩先生は書いておられる。
- ・ 特に府立中学が先に入学試験を行つていたこともあつて浪速中学校の生徒は「卑下」していただも書いておられる。当時我孫子南京と我孫子大根の畠ばかりで「高野線にある学校」というのは「校章を隠して通学」するような生徒が居てもおかしくはなかつたらう。
- ・ 大阪府の支援は創立だけにはとどまらずその後長い間継続していることが今回分かつた。まず創立時の校長事務取扱者である大島鎮治氏の創立30周年浪高新聞に書かれて文章から支援は「教師手配」にまで及んでいたことが分かる。
- ・ 神社界の神社神職の方々ばかりでは学校は出来ない。それは彼らの経験と知識では無理である。「教育課程」一つ、神社の宮司さんには無理である。人間として尊敬に値し教育の見識は誠に持つて高いものがあつても学校作りには「技術」が必要である。だから大阪国学院はまさに全てを大阪府のお力をお借りしていただことが分かるのである。
- ・ 例えば初代の教頭先生は当時の大手前高等女学校（現在の大手前高校）の英語担任教諭を「無理にお願ひして迎えた」とある。当時中学校の新設ラッシュで有資格の優良教師を得ることは「到底事情が許されない時代でした」とも大島氏の回顧録にあることから容易に想像できる。
- ・ 大島先生の文を転記する。“この武田教頭先生は学校では英語の以外に教務庶務全般にわたり校長女房役として実に熱誠もつて創立の大義に奉仕され、学校の基礎を建設した一人として大なる功勞者であつ

たとある。氏は健康に恵まれず病苦をおして生徒の陣頭指揮に当たったことなど思い出され感慨深いのでした。不幸退職後に突如死去され実に気の毒なことでした。”

- ・ 大島鎮治先生の当に「哀悼文」とも言うべき上記の文章から私は教育現場での教務関係即ち「学校の中身」について果たした武田教頭先生の働き振りが分かる。私は今の浪速を代表して武田教頭先生に深甚なる感謝の意を捧げたいと思う。彼から本校の教育の中身はスタートしたのである。
- ・ 初代校長事務取扱の大島鎮治先生は約1年と言う短さで大阪府に戻られたからあくまで浪速中学校の開設がその任であったと考えられる。即ち「予定の線」であった訳である。その間正式な意味で初代の校長先生を大阪府は探していたか既に目星を付けてタイミングを待っていたかであろうが遂に本校に「本流の校長先生が誕生」した。
- ・ お名前を大里猪熊と言われる。昔はこのような勇壮なお名前の方がおられたものである。女性でも「熊」とか「寅」とか。初代校長「大里猪熊」先生、大正13年5月30日から昭和6年1月28日まで奉職された。素晴らしい校長先生であった。この初代大里校長先生の時代に今日の浪速のDNAは育まれて行った。初代校長先生の時代は次のブログで。
- ・ とにかくここで大島先生、治初代校長事務取扱、大正12年4月17日から大正13年5月30日奉職、府の教育主事として浪中創立に奔走、沢之町の仮校舎から現在の地への移転まで今日の基礎を築いた当に「創立の3恩人の一人」であると私は書いた。
- ・ 晩年は府立高校で物理学を講じられたという。私はこの大島鎮治氏のその後の動静を知りたくなった。何処かに資料がある筈である。忽然と来られて忽然と去っていかれたこの教育行政官が創立時の浪速のことを更にどのように言われていたのか知りたいと思う。